

神奈川大学セブンサミッツ計画 & G & G 計画実行委員会

「夢抱き 夢育み 夢実現」 夢実現計画挑戦から

夢無限「G & G 計画」100年ビジョンへつなぐ

七つの大陸の最高峰を訪ねて

(続) 登高者の榮を紡ぐ歩み

～平成10年度～令和元年度

セブンサミッツ挑戦から

G & G 計画への記録報告会資料

神奈川大学学士山岳会

山への目覚め

- ◆ 市内の私立高校に進学し、同級生から山の楽しさを知る
- ◆ 山岳部へ入部希望するが部員過剰で入部不可
- ◆ 地元名門の社会人山岳会へ入会して、登山の基礎から体力練成まで仕込まれる
- ◆ 入会から3年目、二十歳の時大学2年の秋に退会して大学山岳部へ
- ◆ 基本体力と技術があったのですぐにアタックメンバーになる

アマゾン・オリノコ河踏査とは？

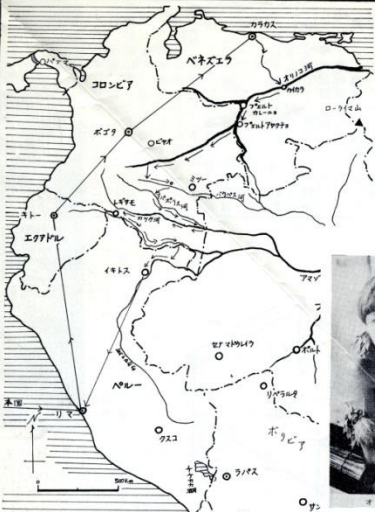
奥アマゾン紀行(一)

この奥アマゾン探検計画は、世界最大の処女地である南米アマゾン河、オリノコ河上中流域の横断踏査を主目的とし、期間は一九七三年五月―一九七六年三月まで第一、第二、第三、第四の四年間を予定しております。そのうち私の参加した第二、第三の四年間を、ボート、徒歩により、主目的である横断踏査(約八千キロ)を終了しました。

この計画の対象である、世界最大の流域面積を持つアマゾン河とその北部に接する南米三大河の一つオリノコ河の上流域は、ペネエ、コロンビア、ブラジルのエクアドル、ペルー、現代文明からみればまだ大部分が未踏の地であり、未探検の文化、自然、資源を秘めていると推定されています。さて、私も一昨年六月から十二月までの約七ヶ月間このジャングルの地帯を約七千キロ探検隊に参加し、色々と体験や動植物を見たり聞いたりして来ましたので、何回かに分けて書いてみたいと思います。

まず我々一行十九名はペルーの首都リマに集結して色々と分野からなるペネエエラの首都カラカスに向いました。ここであらかじめ日本から発送しておいた各種資材、食料を整理再梱包し、タクシ三台とトラクタに分乗してオリノコ河、河野カイカラへと南下しました。ただ広いといふ言いがたい程の草原に真すぐに道路が続いており、道端では牛がのんびりと草をはんでいました。カラカスを出て八時間時速四十五キロで、ようやくオリノコ河に着く、この河はミルクをコーヒーで濁した様な色で、河幅は二キロから五キロもある。

七月六日十二時、いよいよカマロポイント二台に分乗し、ガイド二名と向隊長他八名はサボット隊に見送られて七千キロの旅に出発しました。一日目は約三時間上流に約三時間上流にキンプを張って早速釣り糸を垂すが釣れない。確かに魚はいるのだが、釣れない。夜の久々の夕食は舌づつまを打ち、北斗七星と南十字星を迎えながら砂浜に寝る。翌朝四時、あたりがようやく明るくなり始めた頃に異様な叫び声が突然聞こえてくる。これは聞いていたが、吠え狼の叫び声がこれ程迫力があるとは思わなかった。こうして朝が夜明けと供に始まり昼間はブヨの群からのがれるように走り、気象、水質、動植物(唐がらし)の調査を行なう生活が始まりました。






カリブ海オリノコ河からアマゾン河源流ボリビア迄踏査する学術調査隊

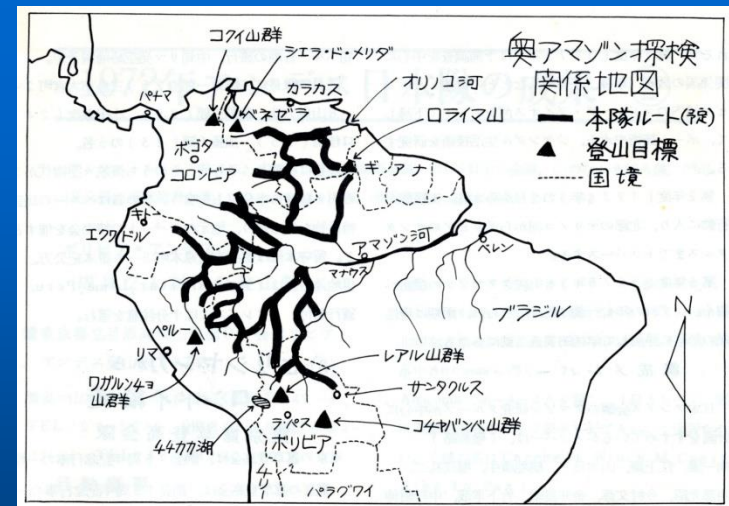
大河はつながっているのか？ 首刈族はいるのか？

カリブ海からアンデスを越えて太平洋へ

オリノコからアマゾン流域



ベネズエラ、コロンビア、ペルー、
ブラジル、ボリビア等大河の源
流域を約10000キロ踏査する
学術調査隊に参加する。



遡行したアマゾン流域の川

- ◆ オリノコ河
- ◆ イニリダ河
- ◆ ガビィアーレ河
- ◆ カケタ川
- ◆ アパポリス川
- ◆ プツマヨ川
- ◆ アマゾン河本流
- ◆ ネグロ川
- ◆ ウルバンバ河
- ◆ マートレ・デ・ディオス川
- ◆ アマゾン河本流

ジャングルの中で考えたこと



毎日が狩猟生活、ピラニア、なまず、猿、狸、ネズミ、イグアナ等動くものは全てが胃袋に消えた。

波瀾万丈の人生が始まる

人間万事塞翁が馬

じんかん ばんじさいおうが うま)

- ◆ 職場復帰そして結婚、子供の誕生と育児
- ◆ 社会復帰3年目に父を見送り
- ◆ 続いて6年目に妻(30歳)を見送って父子家庭に
＝母と姉、弟のサポートで乗り切る＝
- ◆ 仕事と育児の16年、山とスキーで親子のスキン
シップ
- ◆ 子供達が社会人職業人として巣立つ
＝「お父さんこれからどうやって生きてくの？」＝

山岳部復活復興支援活動開始

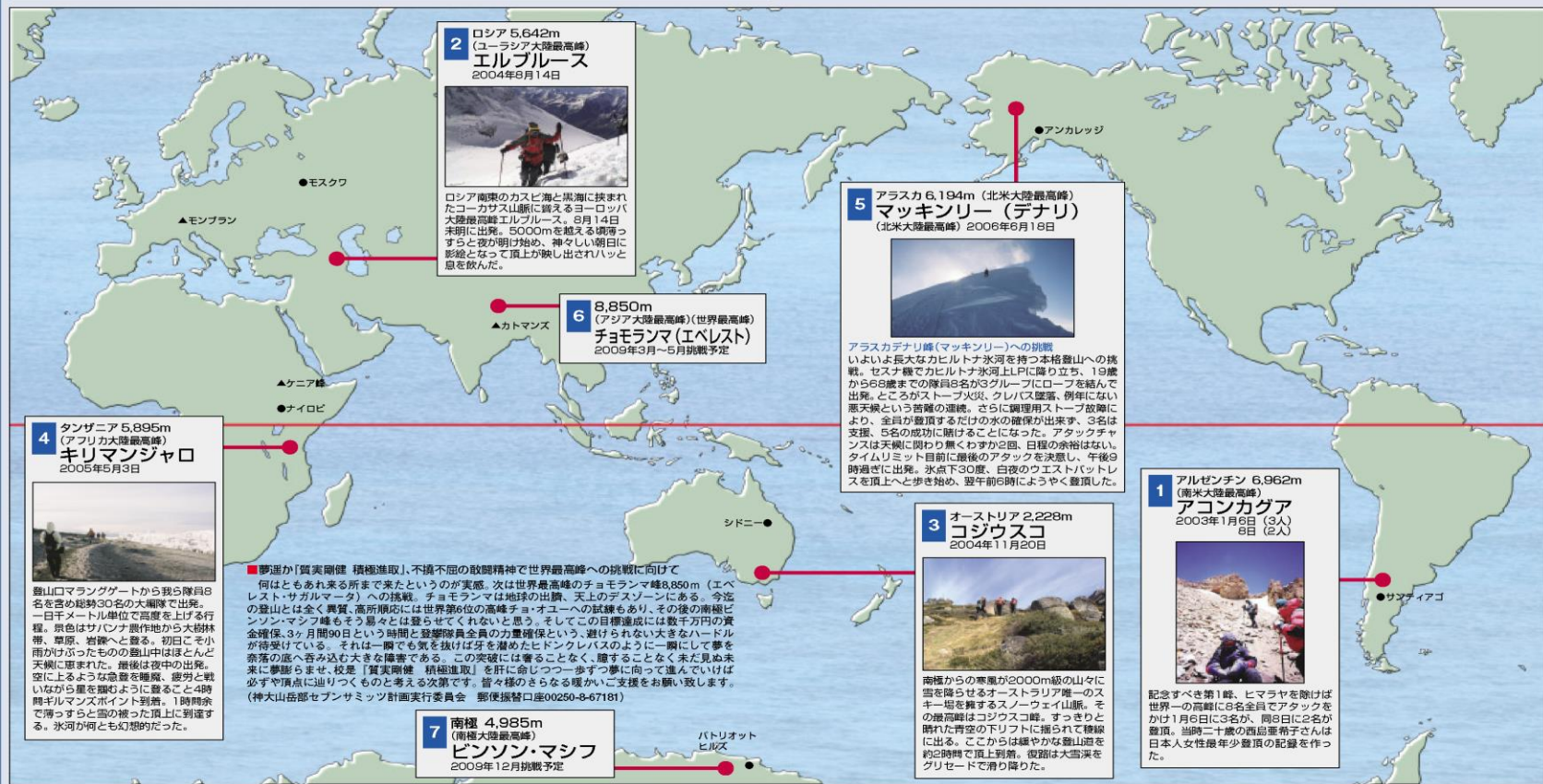
- ◆ 復活復興を願う後輩達からの呼びかけ
- ◆ 部員確保に近隣大学部員や子女の投入
- ◆ OB会の大学校友会への組織改編
- ◆ 指導者育成で積極的に合宿を支援
- ◆ 海外遠征計画でモチベーションを高める
- ◆ 賛助支援募金活動の展開
- ◆ ウェブ、広報紙で活動を内外にアピール
- ◆ 山岳部80年史の編纂でOBを広く呼び込む
- ◆ セブンサミッツ制覇計画を立ち上げる

セブンサミッツとは？

セブンサミッツへの挑戦 目次

セブン
サミッツへの
挑戦

遥かなる地球の旅路165,000キロ
アコンカグアからチョモランマ、南極へ



第1峰アコンカグアへの挑戦



2002年夢実現計画始動



七大陸最高峰制覇セブンサミッツへの挑戦
南米大陸最高峰アコンカグア峰遠征

セブンサミッツ第2峰

ヨーロッパ最高峰エルブルース(5642m)



高所順応で体調管理



第3峰 オーストラリア大陸最高峰 コジウスコ峰(2228m)



トレッキング感覚で登山を楽しむ



第4峰 アフリカ大陸最高峰 キリマンジャロ峰 (5895m)



ホロンバハットからキボハットへ



キリマンジャロ峰ギルマンズピーク



キリマンジャロからケニア峰登頂へ

第5峰 北アメリカ大陸最高峰 マッキンリー峰(デナリ6193m)



第6峰 世界最高峰 & アジア最高峰

チョモランマ(サガルマータ、エベレスト8848m)

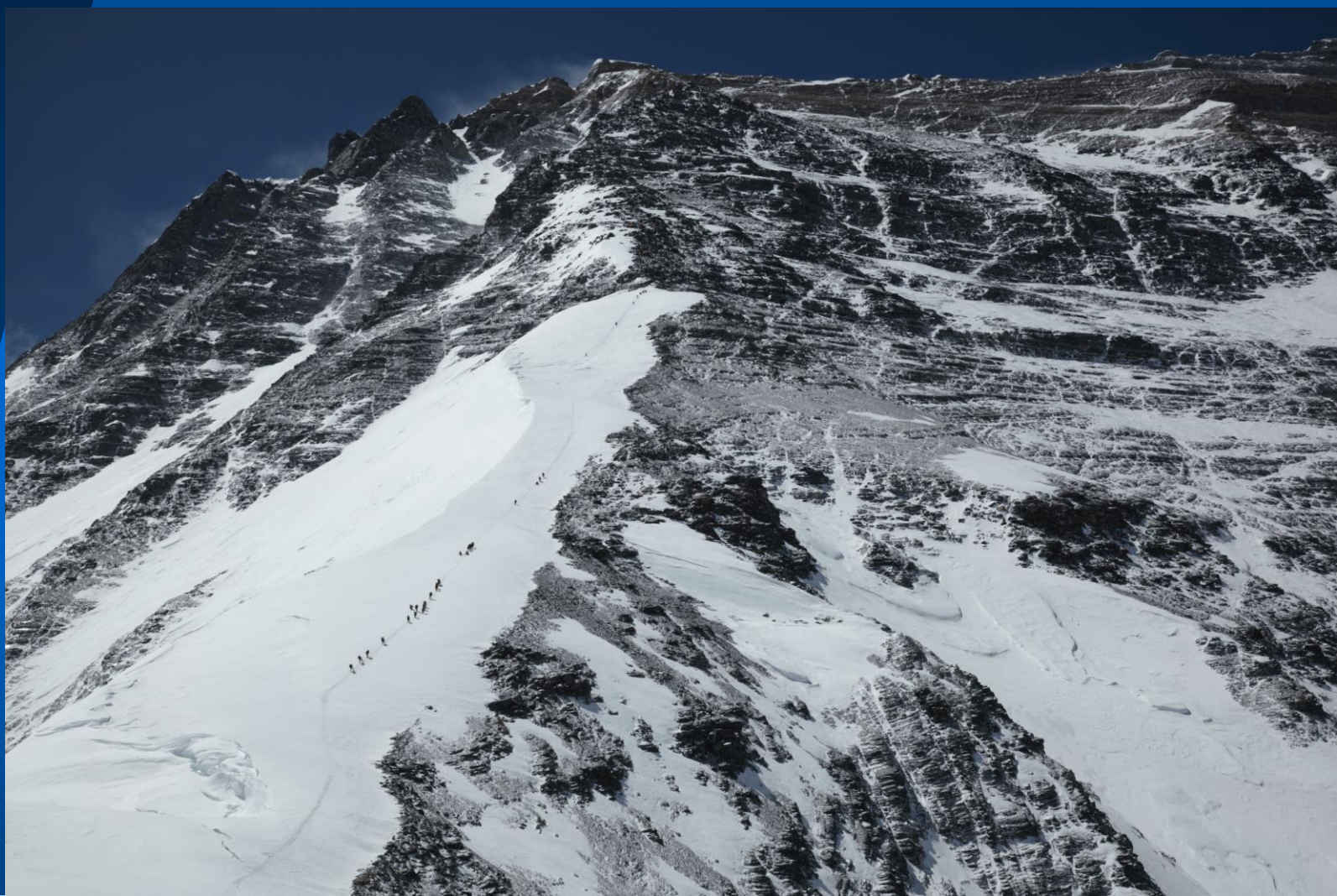


世界最高峰チョモランマへの挑戦



夢抱き 夢育み 夢実現する

キャンプ1からの北稜登高



南極パトリオットヒルズ到着



ツインオッター機で登山基地へ



1000mの雪壁登高



南極大陸ビンソン・マシフ制覇



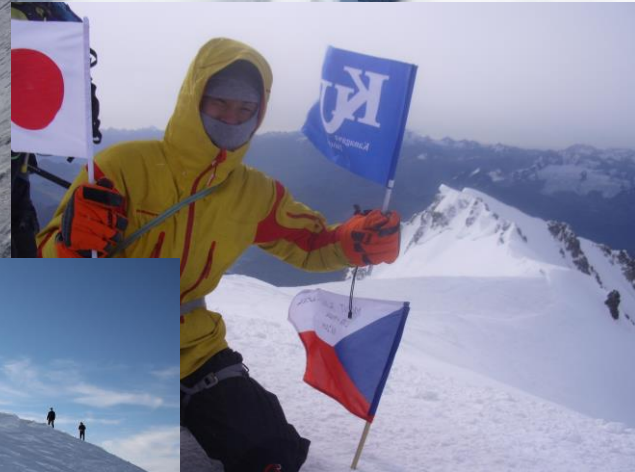
夢無限計画 G&G計画始動

- 2011年 7月 ボルネオ キナバル峰遠征
- 2011年 8月 モン・ブラン、ブライトホルン、マッターホルン遠征
- 2013年 5月 デナリ偵察ルース氷河、IFSC W-cupトロント大会、ベイル大会応援観戦
- 2014年 7月 IFSC W-cupインスブルック大会、グリンデルワルト大会応援観戦、ツェルマットトレッキング
- 2014年10月 ヒマラヤ ロールワリントレッキング遠征
(未踏峰探査行)
- 2015年10月 ヒマラヤ タシカン・タサルツェ峰未踏峰遠征
- 2016年 5月 ブランカ山群ワスカラン、ピスコ遠征
- 2017年 5月 ロシア エルブルース遠征
- 2017年 8月 韓国嶺南アルプス&インスボン
- 2018年 3月 アメリカ ビショップボルダリング遠征
- 2018年 9月 ヒマラヤ マナスル遠征

G & G計画第1峰キナバル山登頂



モン・ブランアタック



マッターホルン制覇



美しいマナスル峰



現役学生畠山君のマナスル登頂



これから山岳部が目指すものとは

◆山岳部 & 山岳会の理念

- ・マウンテニアスピリットを錬磨し、志高く心身逞しい野外活動のオールランドプレーヤー & 指導者を育成する。
- ・未知への旺盛な探究心と挑戦意欲を育み、「文武両道」知識研鑽と気力充実・身体剛健、体力錬磨に精進する。
- ・最新登山技術の習得応用と後進への指導で相互技術向上を図る。
- ・クライミングコンペ、トレイルラン等競技スポーツへの積極的参戦で実績をつくる。
- ・ライトエクスペディションによる海外遠征でグローバルな視点を持った後継指導者を育成する。

山岳部 & 山岳会の基本方針

私達山岳部員とOBは、マウンテニアスピリットを基本理念に、人格尊重、相互啓発「登山」という崇高な文化活動の中で学び・育み・成長する過程を大切にし、最新登山技術を習得錬磨しつつより困難、高度な登山活動を通じて、優れた人間関係を醸成すると同時に、地球の環境保全活動に取り組んで未来に有為な人材を輩出することを目標として掲げます。

◆山岳部 & 山岳会の運営方針

- ◆ ・建学精神に則り、常により高き、より困難に挑戦する気概と情熱を漲らせ目標に邁進する気風をつくる。
- ◆ ・わが山岳部の理念と基本方針に賛同される支援組織を組織強化する。
- ◆ ・JAC学生部、県下近隣大学山岳部との交流、切磋琢磨により同世代人として遜色ないグローバルな見識と視点を持った人づくりを図る。
- ◆ ・現在、未来へと有為な学生の育成に取り組むため財政健全化を図る。
- ◆ ・日本は七つの海に通ずる島国であり、国土の80%が山々で形成された海彦と山彦の民で成立つ民族国家です。登山文化をより充実させるために早期に「山の日」制定を山岳諸団体と連携協調して世に発信し、多くの方が山に親しみ、その恩恵に感謝しつつ豊かな自然を次世代に残せるよう努力する。

未来の後輩達に「夢無限」をつたえる

世界大恐慌が席卷した昭和初期、開学と同時に山岳活動を開始した井上隆保・広岡大三・狩野 丘ら創部者達は経済的困苦の中何を求めて同好の志を募ったのであろうか。

僅か数年後には30人以上の若人が山岳部に入り活発多様な活動を繰り広げている。

競技スポーツではW-cup、世界選手権に参戦して結果を出し、オリンピック参戦を目指している。

私達は先人が築いてきた建学精神「質実剛健 積極進取 中正堅実」に則り、続「登高者の榮」を綴り、未来の後輩に夢のキャンパスを贈り続けたい。

Great Summits 10峰とは？

ご承知のようにNHKが選んだ世界の名峰、地球の美しい山々10峰です(すでに6峰を登頂しております)

1. キナバル峰 熱帯の命あふれる山
2. モン・ブラン アルプスの白き女王
3. 秀麗な岩峰マッターホルン 天を突く孤高の頂
4. アスパイアーリング 風と水がつくった光の山
5. マッキンリー峰(デナリ) 極北の偉大なる山
6. キリマンジャロ峰 赤道直下の白き山
7. アウヤンテブイ 天空のロストワールド
8. パプアニューギニアのウィルヘルム峰 聖なる岩の峰
9. ペルーブランカ山群のワスカラン峰 熱帯の最高峰
10. カムチャッカ半島のクリチェフスカヤ 火と氷の山

Himalaya Giants 14座

1. エベレスト(サガルマータ・チョモランマ 8848m)
2. K2(チョゴリ 8611m)
3. カンチェンジュンガ(8586m)
4. ローツェ(8516m)
5. マカルー(8463m)
6. チョ・オユー(8201m)
7. ダウラギリ(8167m)
8. マナスル(8163m) 日本初登頂
9. ナンガパルバット(8126m)
10. アンナプルナ(8091m)
11. ガッシャーブルム I (8068m)
12. ブロードピーク(8051m)
13. ガッシャーブルム II (8035m)
14. シシヤパンマ(ゴザインタン 8027m)

変遷するスポーツについて

時代と共にスポーツは進化発展してゆくもの、登山も同様に、自然を親しむと共に歩く、走る、攀じる等多様化が進んでいます。

町にはクライミングジムがつくられ、野山を走り回るトレイルランは数キロからフルマラソン、数百、数千キロマラソンまで出てきています。

富士山駅伝やキナバルトレイルランが一例でしょう。

嘉納治五郎の作り上げたスポーツ 「柔」→「柔術」→「柔道」→「JUDO」

たとえば柔、柔術という日本古来の武術がどうして柔道として世界のJUDOになりえたのか。

僅か100年という時間の中で少しずつ熟成進化して武道からスポーツへと変わり、その中で競技として独り歩きして今日に至ったものと思います。

そのために忘れられたことがあります。武道本来の持つ道としての求道精神、礼法、心のありよう等です。

今それらを取り戻そうとする動きが少しずつ芽生えてきています。講道館や世界柔道にルール変更や礼法を中心とする指導に現れ始め、柔道ルネッサンスとして定着しつつあります。

変わりゆく「登山」の姿

冒険・探検からレジャー から競技スポーツへ

登山も又同じです。

日本の場合は修験道として始まり、ウィンストンによる欧州アルピニズムの普及により冒険、探検、より困難を求めた初登攀競争の時代を経て海外のジャイアンツや未踏峰制覇へ。

「山」というフィールドは、山岳信仰、修験道から春夏秋冬折々の季節を満喫するハイキング、トレッキング、アルパインクライミングへと、そして登り方も一般ルートからバリエーションルート、より困難なルートの選択を経てロッククライミングのフリー化へと進み、競技としてボルダリングやリードなどスポーツ化が始まり、山という高度差を利用した山岳耐久レースやトレイルランがこれらとは別に新たに加わり、更にもう一つのフィールド、屋内外のクライミングジム、人工壁が加わってスポーツへと進化を続けているようです。

ご清聴有難うございました

～令和元年度～
雲南懇話会—講演資料

制作：神奈川大学山岳部 落合